

第5回仙台広域圏ESD・RCE学びあいセミナー

「地域の活性化とESD」

第5回仙台広域圏ESD・RCE学びあいセミナーでは、地域社会の活性化に関する研究を行っている2名の先生に御講演頂き、これからの地域社会・経済システムのあり方と、そこにおけるESDの意義、役割について考えます。

日時：平成22年2月20日(土) 13:00～15:30

場所：東北大学・工学部機械知能系共同棟6F会議室

講演1

演題：「私たちのESD 川崎－仙台薪ストーブの会の取り組み」

講師：新妻 弘明

川崎－仙台薪ストーブの会会長

東北大学大学院環境科学研究科教授

概要：私たちは、「薪をとおして森を想い、薪をとおして森とかかわる」のテーマの下、自分たちで使う薪を、川崎の森で生産し自給する活動を行っています。そこでは、エネルギー・環境問題、里山の維持と生物多様性の問題、エネルギーや資源の自給の意味、環境問題と我々のライフスタイル、環境に適合した文明のあり方など、我々自身の活動を通して身をもって学ぶことができました。本講演では「川崎－仙台薪ストーブの会」の仕組みとその活動、我々の体験についてお話します。

講演2

演題：「内在的ESDと持続可能な地域社会の創造」

講師：鬼頭 秀一

東京大学新領域創成科学研究科教授

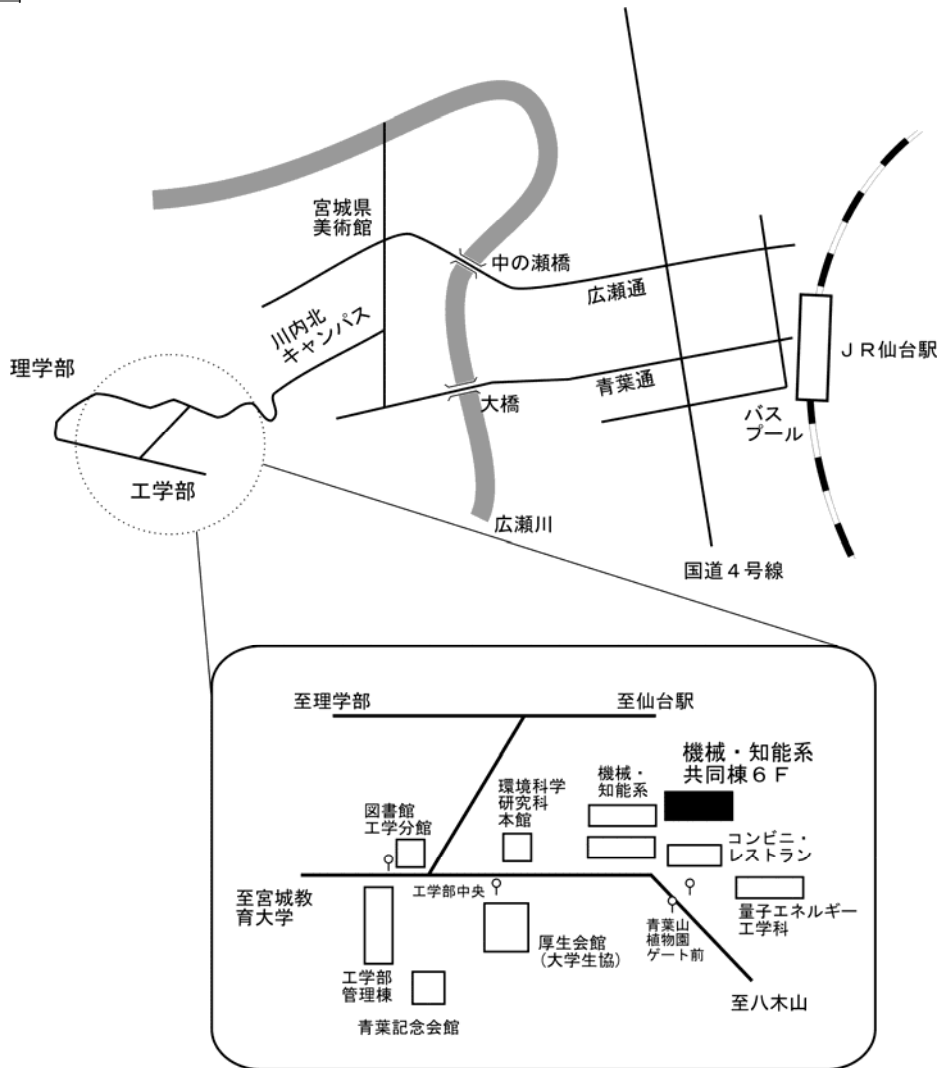
概要：ESDは、制度的な環境教育とは違い、本来は、持続可能な社会を構築するための教育のあり方であり、貧困や民主主義、生活の質といった、社会的、文化的、政治的な幅広い視点を含んだものとして提起されてきた。しかし、現状のESDは、従来の環境教育と変わらないものとしてしか認識されず、外在的な視点から、外から導入されるものとしてESDが語られている。そこで、本講演では、本来的なESDのあり方を再認識し、それを実現するための手法として、「内在的ESD」という新しい概念を導入し、地域に根付いた内発的なものとして、地元の自然と人、人と人との関係を育む新たな学びのあり方を提起したい。これは、非文字的な地域にローカルに暗黙的な形で根付いているローカル知を再発見し、それを再創造していくものであり、遊びなども含めた精神的な自然とのふれあいや、地域社会での相互扶助的な社会関係のあり方を学ぶことでもあり、地域自治の基礎となるものを学ぶことでもある。1. 地域の自然環境・自然資源、と、2. 地域の歴史、文化、伝統に根ざして、3. 地域の自治システムを持ち、伝統回帰ではなく、外との交流の中で伝統を再創造していく、4.

開かれたシステムをもつものでなければならない。そのことを、宮城県綾町上畑地区と山形県西川町大井沢地区の二つの事例を通して提示していきたい。

参加申し込み：

参加希望者の御氏名を幹事(asanuma@ni2.kankyo.tohoku.ac.jp)までお知らせ下さい。

会場案内図



問合せ先：

仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-20

東北大学・大学院環境科学研究科

浅沼 宏

TEL&FAX 022-795-7399

asanuma@ni2.kankyo.tohoku.ac.jp